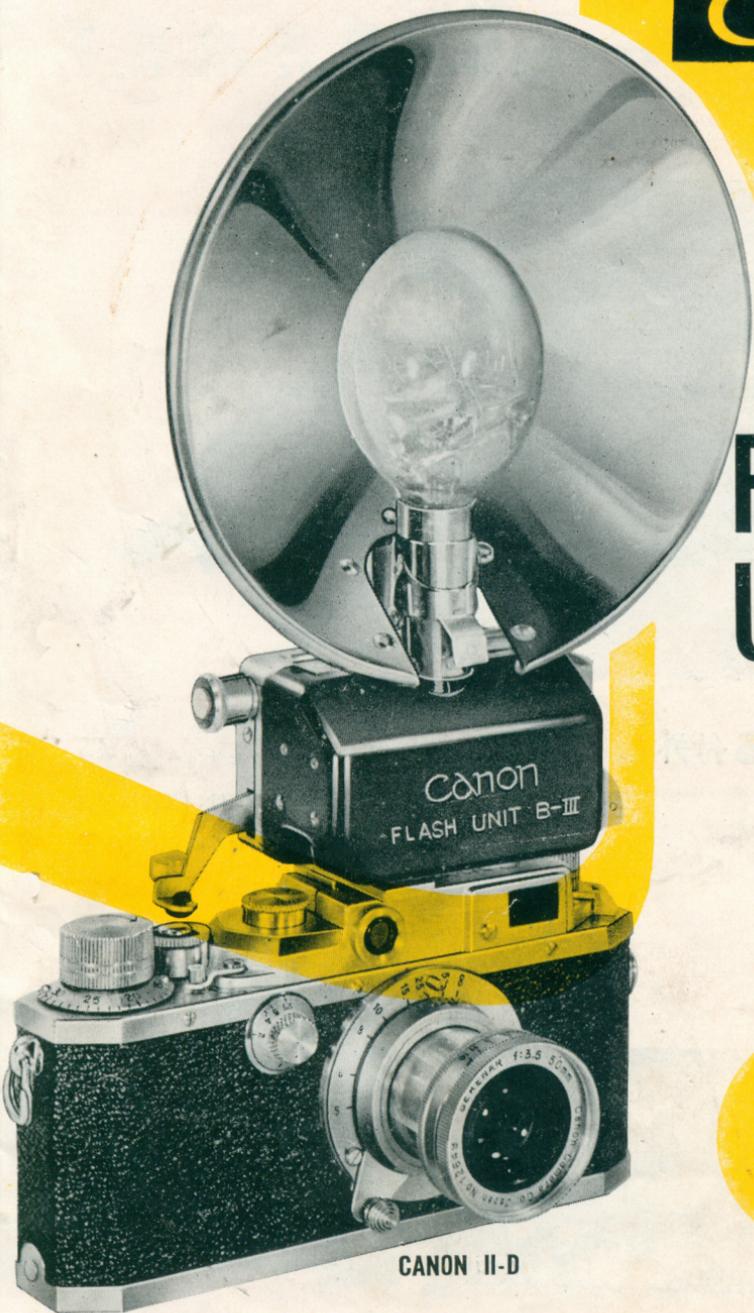


Canon

•
**FLASH
UNIT**
•

model

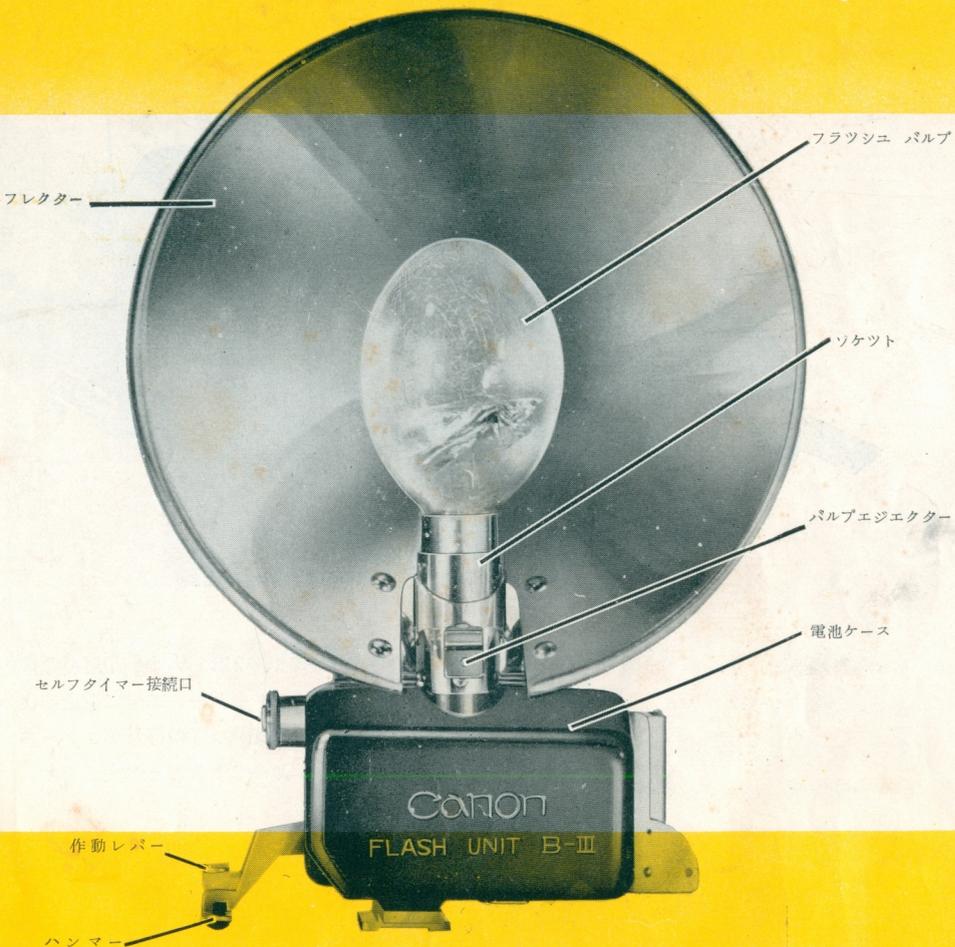
B-III



CANON II-D

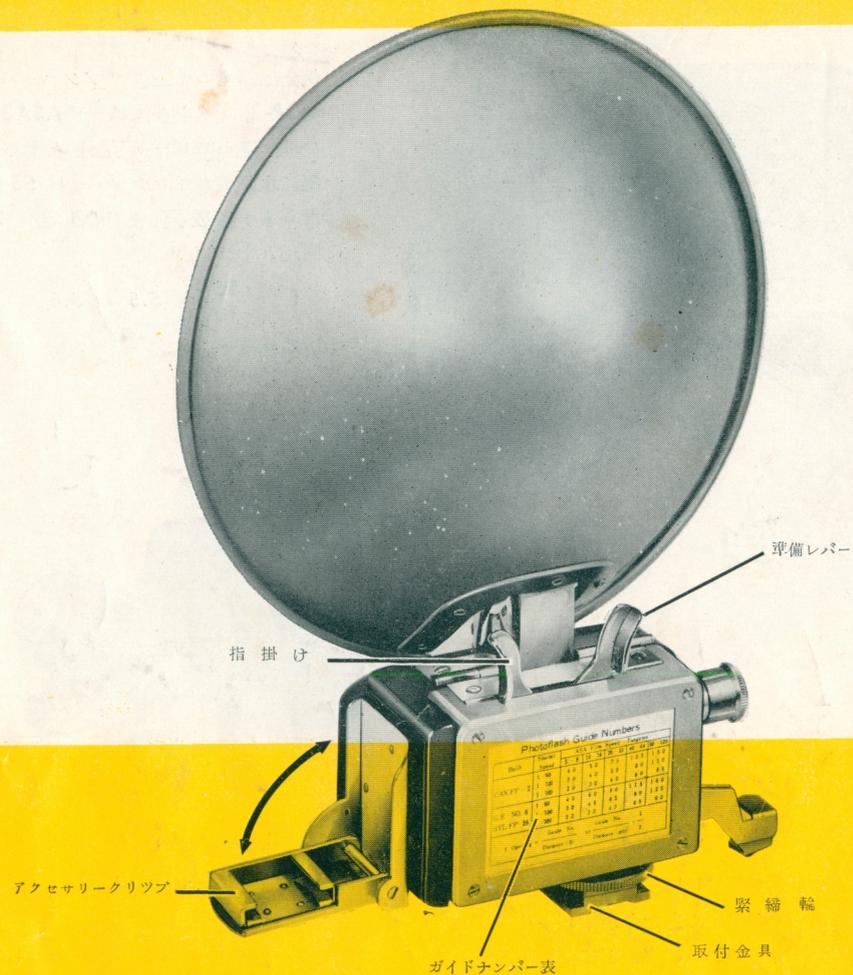
キヤノンフラッシュユニット B-III型

Canon



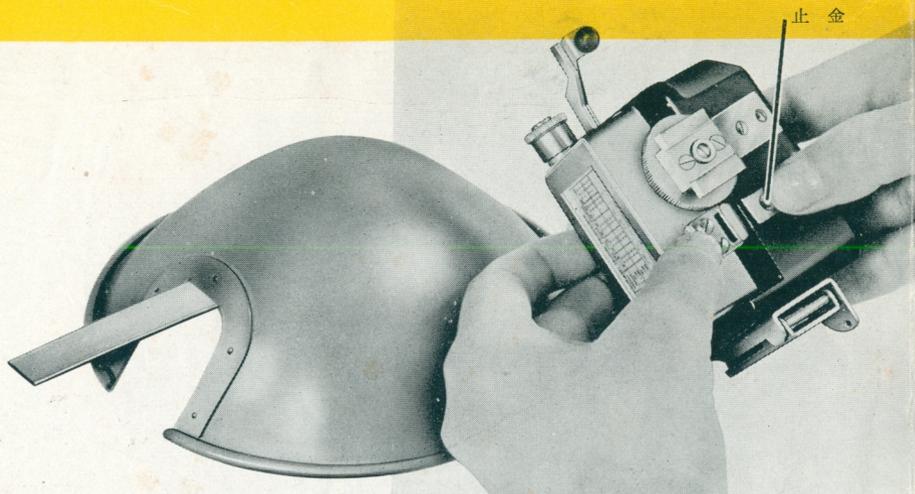
キヤノンフラッシュユニット B-III型は外部同調型のフラッシュユニットで、キヤノンカメラの各型に用いられ、特にキヤノン II-D のような内部同調装置なしのカメラに取付けて、簡単にシンクロフラッシュ撮影をすることができます。

発光装置は B C 型でミゼット F P バルブ専用、 $1/100$ 秒～ $1/200$ 秒のシャッターに同調するよう設計され、リフレクターの投光角は約 65 度で 35mm 広角レンズの画界を包括します。調整済ですからカメラに取付けて直ちに使用できます。

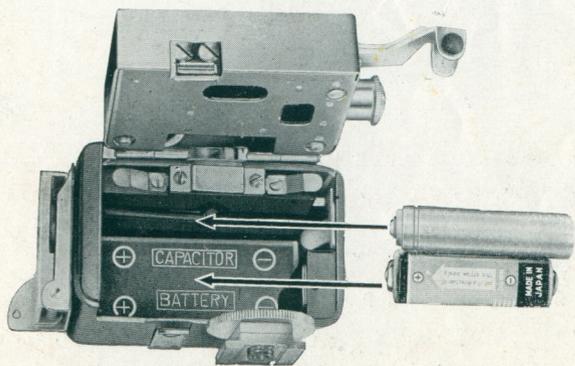


電池の装填

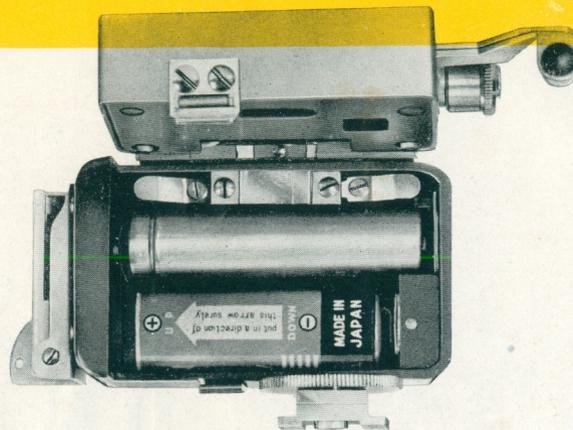
- 1 先ずリフレクターを抜き取ります。
- 2 電池ケースを裏返しに持ち、止金を指で押し付けながら、他方の手でケースの蓋を開きます。



- 3 開いたケースの中に、22.5 V 小型積層乾電池と 200 μ F キャパシターとを、二段に重なるように入れます。その際 \oplus \ominus の符号が、ケース内の \oplus \ominus と合うようにすることが大切です。

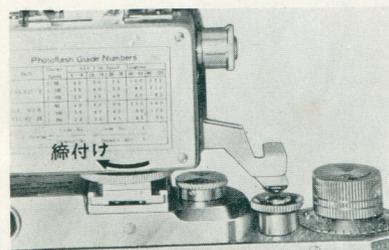


- 4 最後に止金が掛かるまで蓋を閉じます。



カメラに対する付外し

取付金具をカメラのアクセサリークリップに差込みます。差込みの際は、緊締輪を矢印と反対の方向に戻しておく必要がありますが、差込み終わりましたら、緊締輪を矢印の方向に廻して固定します。取外しは緊締輪を矢印の反対に廻してから行います。



操 作

① カメラの巻上げつまみを、巻上げます。

② フラッシュバルブを差込みます。(リフレクターはバルブと中心高が同じになるよう高さを加減する必要があります。)

③ 準備レバーを矢印方向にセットします。



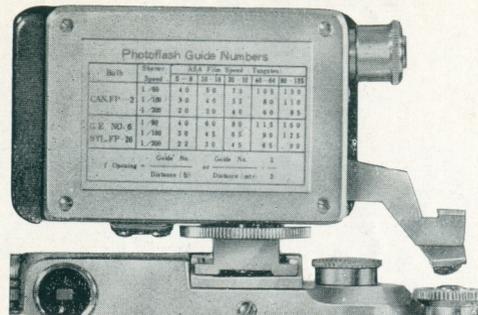
④ ガイドナンバー表によつて、レンズの絞とシャッタースピードを決定し、その調節をします。

⑤ カメラのピントを合せた後、被写体にカメラを向けて、作動レバーを押します。これによつてハンマーが動き、バルブが発光すると同時に、シャッターが切られます。

⑥ 使用済のバルブはバルブエジェクターを押すと、とび出します。

ガイドナンバー表

フラッシュ撮影で露出を決める場合、背面のガイドナンバー表によると便利です。先ず使用するフィルムスピード(ASA-タンゲステン)と予定のシャッタースピードとから、表によつてガイドナンバーを見出した後、被写体とバルブとの間の距離(呎)でこのガイドナンバーを割ると採用すべきf値がわかります。



例えばキヤノン・フラッシュバルブFP-2, フィルムスピードASA32, シャッタースピード1/100秒とすると表によつてガイドナンバーは55になります。被写体までの距離が10呎だとすれば

$$f = \frac{55}{10} = 5.5 \approx 5.6$$

と決めます。

アクセサリークリップ

折畳式で使用時には横に開きます。交換レンズの使用にあたり専用ビューファインダーを用いる場合などに便利です。



セルフタイマー

セルフタイマー 取付口に キヤノン セルフタイマーを接続しますと、作動レバーを自動的に操作させることができ、フラッシュ撮影とセルフタイマー撮影とを同時に行うことができます。

回路テスト

バルブの代りにテスト用電球を差込んで、普通の場合と同様に、準備レバーをセットした後、作動レバーを押します。その際テスト球が点灯すれば、回路は良好ですが、点灯しなければ、電池、キャパシターその他を確かめなければなりません。



キヤノンカメラ株式会社

本社・工場 東京・大田区下丸子 電話蒲田(03)代表2191・6111
サービスステーション 東京・中央区銀座5の3 電話銀座(57)3767・4461